

(※10/12 開催予定から台風により 12/21 に順延後のバージョンです)
(※最新版はあこう堂サイトからもダウンロード可能です)

柔道創設時と変わらぬ自由なルール



柔道開祖生誕の地・神戸にて、歴史を超えて再生



武術競技化の原点、柔道の源流

全てはここから始まった。

< 第3回古流柔道大会 > . . . パンフ兼報告書 . . .

・日時：令和元年(2019)12月21日(土)12~17時

(※10/12 当日の台風により順延になりました)
(12時開場、13時試合開始)

・会場：王子スポーツセンター(神戸市灘区)

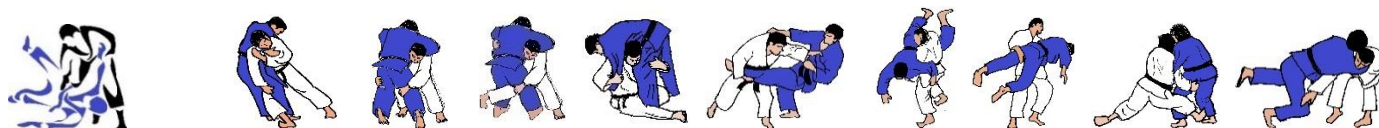
・主催：あこう堂(古流柔道実行委員会)

ごあいさつ:「古流柔道」とは？

柔道は明治期(1882年)に、「古流」柔術から嘉納治五郎によって設立されました。打撃技や武器の使用などの危険な技術を省き、独自の「柔術」技術を取り入れたもので、もともとの「柔道」の形態では、立技、寝技およびその移行のいずれでも制限の少ない攻守の技術により、自由に戦えるものでした。しかし、その後の多くのルール改訂以降、おもとの柔道ルールは「高専柔道」として知られているものには残らず、その高専柔道も日本の敗戦以降、消滅状態であり、今日ではそれを継承した7つの国立大学にしか残っていません。

昭和柔道
Freestyle

柔道の七大学ルール(七帝ルール)は、「高専柔道」の現代版です。時代とともにいくつかの危険技は禁止されましたが、それ以外は、柔道創設当初のルールのみであり、「古流柔道」とも呼べるでしょう。勝ち負けも審判や判定によらずに決定される傾向があるため、他の武技、格闘技にも容易に応用できます。さらに「国際柔道」の発展により、足をつかむ攻防など多くの伝統的で効果的な技術が消えつつある現在、この「古流柔道」はますますその重要性を増しています。



今大会はこの貴重なルールの機会であり、古流柔術の原点や古来の組み討ち術にまで遡る合戦のように団体戦として行われます。柔道の創始者・嘉納治五郎の生誕地である神戸における原点回帰でもあり、また、柔道創始の講道館柔道と、古きを維持してきた古流柔道(高専柔道)との歴史を超えた邂逅でもあります。「古流柔道」は、古流の諸派も納得して競うことができる根源的でシンプルな武技であったため、以降、種々の競技格闘技にも影響を与えました。派生した各競技にとっては現代においても安全な共通ルールとなり得るでしょう。柔道ルール激変の今こそ、柔道家も他の競技の方もおもとの柔道創設時の精神に戻り、原点を感じてください。今大会が「古流」や「柔道の原点」の探求への旅立ちの機会となれば幸いです。

源流柔術



What is "Koryu-Judo" ?

Judo was founded in 1882 by Shihan Kano Jigoro from the Koryu (old-style) Jiu-Jitsu. Judo is a recently established martial art, which incorporates original "Jiu-jitsu" techniques, with less emphasis on dangerous techniques including striking and use of weapons. In the original form of "Judo", competition could proceed in a freestyle manner with attack and defense techniques unrestricted to either standing posture, Ne-waza (ground positions, grappling techniques) and their transitions. However, since many subsequent revisions of modern Judo rules, the original rules have since survived in what is known as "Kosen-Judo". While Kosen-Judo has also declined since the second world war, today it still remains in the 7 Japanese National Universities that inherited it.



The Competition of the Seven Imperial Universities rules for Judo are based on "Kosen-Judo. With exception to the prohibition of a few dangerous techniques of modern times, these rules follow the original style of Judo, and therefore also follow "Koryu-Judo" (old-style Judo)". These rules are simple and the techniques are fundamental. Winning and losing tend to be determined without relying on referee or judgment, so it can be easily applied to other martial arts. In addition, since the development of "International Judo", many traditional techniques involving the grasping of legs are disappearing. The loss of effective techniques further emphasizes the importance of preserving "Koryu-Judo".



This tournament is an opportunity of this precious rule, and it will be held in a group battle like a battle dating back to the origin of old-fashioned jiu-jitsu and the ancient techniques of battle. It is the origin return at birthplace of Judo founder Jigoro Kano, Kobe. It is also a timeless encounter between Kodokan Judo, the founder of Judo and Kosen-Judo, which has been kept old. "Koryu-Judo" was a fundamental and simple martial art that various styles of old-style jiu-jitsu could convince and compete, then it influenced various martial arts. For each competition derived from judo, "Koryu-Judo" can be a safe common rule as the greatest common factor even in modern times. Now that the judo rules have changed drastically, in this contest, both judoists and other grapplers will be able to return to the spirit of the original judo foundation and feel the starting point. I hope it will be an opportunity to start a journey into the quest for "old styled" and "original judo".



試合ルール：

●「試合ルール」は全国七大学柔道審判規定に基づく（※添付は省略。以下のサイトから確認ください。）

七大学柔道大会試合審判規定 参考：<http://nanadai.sen.akamonjudo.com/nanadairule-06.pdf>

ほぼ創設時のままの柔道ルールを残した「高専柔道」ですが、その「現代版」として、時代とともに危険技は禁じられています。以下には「講道館柔道」「国際柔道」「ブラジリアン柔術」「スポーツサンボ」「レスリング」「相撲」などの組み技競技との相違を念頭に要点を整理しました。ご参考下さい。

「七大学柔道大会試合審判規定」の特長と要点（2017. 5. 7.岡本啓／2018 あこう堂改訂）

1 試合者の組み方（寝姿勢への移行について）：

- 1) 試合者は、立ち姿勢（「自然体」または「自護体」）で組み合うことにより競技を始める。いきなり寝姿勢となることは認められない。
- 2) 組み合う場合、相手の上衣、帯および下穿のどこであっても握ることができる※1。（例えば、「片襟片袖」の組み方を継続してもよい※2）但し、相手の上衣の袖口、下穿の裾口の中に指を入れることは認められない。「双手刈」「肩車」等の投技や、足を取っての（下半身への）攻撃または防禦も認められる※3。

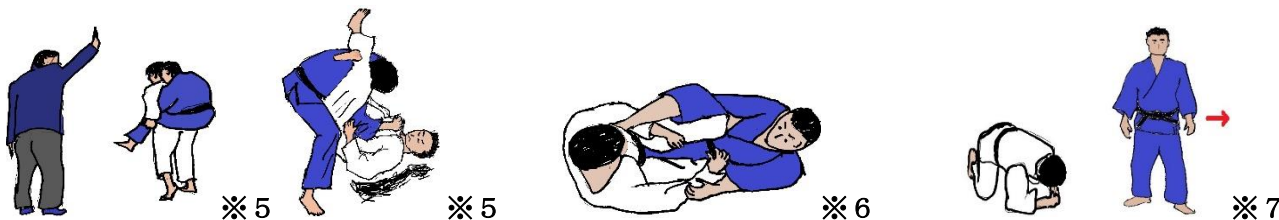


- 3) 「引き込み」により寝技へ移行する場合は、相手の上衣（帯より上の部分、帯を含む）を両手で握って行うこと※4。片手だけで相手の上衣を握って引き込むことは認められない。

2 「待て」の宣告について（立ち姿勢から再開する場合）：

●相手を持ち上げた場合

寝業が膠着せず続いている限り「待て」の宣告はないが、相手の体を持ち上げる、相手がぶら下がるなど相手の体を畳から離れた場合、「待て」の宣告の後、立ち姿勢から試合が再開される※5。

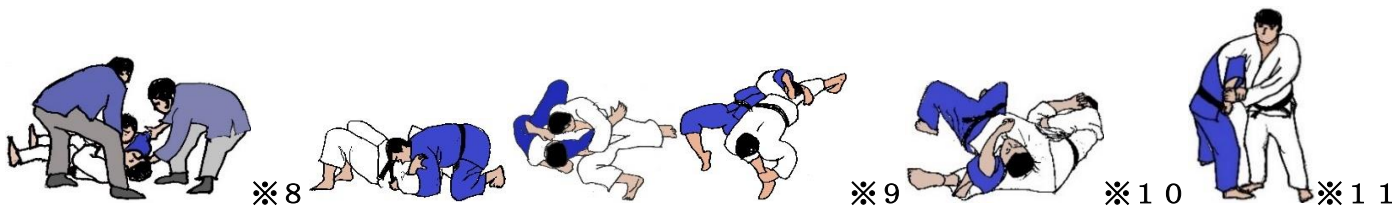


●膠着状態による「待て」の宣告

- 1) 両者がともに「足緘」を掛けたような体勢となり、双方が起き上げず膠着したと判断した場合※6。（ただし「足緘」のような外掛けの体勢になること自体は、膝や足首の関節を極めなければ反則とならない。）
- 2) 一方が「カメ」の体勢で静止し、他方に攻める意思が認められない場合※7。

3 場内・場外の扱い

- 1) 試合場内で始まった動作が継続し、掛けた技が場外で極まった場合、審判の「待て」の宣告がない限り、その技は判定の対象となる。
- 2) 試合場外またはその周辺で両者の動作が静止したとき、「そのまま」の宣告後、試合者を場内中央に戻して静止時の状態から競技を再開する場合がある※8。



4 技の判定（勝敗）

- 1) 技の判定は、「一本」または「技有」のみ。「技有、合せて一本」も適用されるが、技有の「優勢勝」はない。
- 2) 一本は、投げ、抑え込み、関節技（肘関節のみ）、絞め技が対象。

3) 投技の「一本」は、濡れ雑巾を床板に叩き付けるイメージであり、「技有」は、「一本」に近いが足りない状態。

4) 関節技、絞め技の1本は、マイッタの意思表示以外に、審判の判断による場合もある。

5) 抑込技の「一本」は30秒、「技有」は25秒以上の継続が必要。「抑え込み」の宣告は、完全に「四方」または「袈裟」の体勢に入ったと認められたときに発せられる※9。「裏固」あるいは脚を「三角固」に組んだだけの体勢は、抑込技と認められない。

6) 関節技を利かしながらの投技（通称「腕返し」や腕緘に抱えながらの「隅返」「支釣込足」など）は、反則ではないが、投技としての効果は認めない※11。

5 禁止技

1) 「足関節技」、「手首関節技」、「首関節技」、「胴絞」、「蟹挟※12」、「河津掛※13」。

2) 関節技は肘関節のみが認められる。肘関節以外の関節が極まりそうになる場合は「待て」が宣告される。

※肘関節以外の関節技により相手がマイッタした場合、技を施した側の反則負けとする場合もある。

3) 立ち姿勢から一挙に体を捨てて「腕挫腋固」を施すこと※14（※体重をかけず巧みに移行する場合は反則ではない）

4) 通称「肩三角グリップ」（相手の頸部と一方の肩を両腕で抱え込んだ状態）での投技。首を極めた投げ技※15。

5) 自分の手指や拳による直接の絞め、両脚で直接挟んだ絞め、相手または自らの上衣の裾や帯を使った絞め。

6) 立ち姿勢において、互いに手の指を組み合わせ続けることは反則。なお、寝技の攻防において、相手の手指4本を握ることは認められる（※3本以下の手指を握ることは反則）。

7) 相手または自らの道衣を故意に乱すことは反則。（解けた帯、乱れた着衣は適宜直させる）。※16



※12



※13



※14



※15



※16

.....

大会当日ご協力者様(敬称略)

	<p>仁木征輝 Master of Kosen - Judo、最後の高専柔道、仁木流格闘術、市井の武術マスター、津山弁の格闘仙人</p>		<p>瀬戸口正征(東大柔道部 OB) 西日本実業柔道連盟理事長 関西七柔会幹事(大会運営、表彰など)</p>
	<p>伊藤吾希夫 京大柔道部 OB (大会顧問医師) 伊藤整形外科 (主審もご担当いただきました)</p>		<p>森和義 東北大柔道部 OB 北浜柔道塾</p>
	<p>渡辺秀章 九大柔道部 OB。大会試合記録・掲示担当。数学博士。</p>		<p>藤原勝博 1980 生・39 歳 182cm/70kg 植木屋、セミプロバンドマン、ベーシスト、シンガーソングライター、古流武術、グラップリング、空手師範 ケガのため撮影係担当</p>
	<p>大塚裕蔵 / 北浜柔道塾 時計・試合周り</p>		<p>大塚裕蔵 / 北浜柔道塾 時計・試合周り</p>

副賞・賞品&ご提供者様

提供者	副賞・賞品	
あこう堂	優勝カップ(贈呈用小型) 優秀選手賞カップ 優勝カップ(持ち回り用大型)   (表彰状)	
野村豊和先生 (ミュンヘン五輪・金メダリスト)	柔道組手強化用手首鍛錬具「野村リスト」 野村豊和先生考案&製作&ご提供。直筆サイン入り。 天理柔道の投げの真髄。崩し、吊り、引き・瞬時に対応・変化するための手首鍛錬具。 「技が早くなる(野村先生談)」  × 5	 × 5 DVD「天理柔道技の極:背負い投げ・野村豊和」天理大での背負い投げ講習会 DVD
瀬戸口先生	高専柔道経験者による技術の粋を網羅。 歴史を刻む貴重本「高専柔道の真髄」 	
あこう堂	「野村チューブ」野村豊和先生・考案&製作監修。 金メダリスト養成・打ち込み用ゴムチューブ。打ち込みの正確性養成・動的鍛錬に最適。1日打ち込み千本、3年続けてチューブが切れる頃にはホンモノの技  1本 柔道史に輝く NOMURA の刻印入り 「寝業の伝統」 新世代の高専柔道教本。高専柔道から最新技術まで網羅した労作。寝業師・柔道家必携の書 日本語版1冊 & 英語版1冊  各1冊(計2冊) 高級大相撲グッズ/手ぬぐい各種(※参加賞:全員分) その辺では入手不能な貴重品。力士名、部屋名入り各種。温泉などで見せびらかしましょう。 ほか、高級大相撲扇子×5  ×大量  扇子×5	
あこう堂 (オリジナルグッズ) ※参加人数に足りるので今回作製のTシャツは全員配布(参加賞)	 ラッシュガード×4  マグカップ×5  キーホルダー2種×各5  巾×20  古流柔道合戦Tシャツ 昭和柔道Tシャツ 昭和フリースタイル柔道手ぬぐい 	

<参加チーム>

「チーム畳上手」(※順延後再結成)

	<p>表原宏和(オモテハラヒロカズ) 1983 生・36 歳 172cm/70kg</p>	<p>柔道 30 年、柔道四段、柔術茶帯、総合格闘技道場コブラ会</p>
	<p>福田 実(フクダ マサル) 1987 生・32 歳 172cm/78kg</p>	<p>柔道 5 段 柔術紫帯 ゴロッタ柔術アカデミー 婚活中です</p>
	<p>坂井周一(サカイシュウイチ) 1972 生・47 歳 176cm/120kg</p>	<p>柔道 5 段。カザフスタン式レスリング 2017 年度元日本代表(補欠) コンバットレスリング 2016 年度マスタースアジアヘビー級チャンピオン。みなとう会主催相撲大会 2018 年度団体優勝。剛斗館。阿波の極悪海坊主。阪大 OB (空手)</p>
	<p>三好寛(ミヨシヒロシ) 1981 生・38 歳 177cm/82kg</p>	<p>柔術茶帯 吹田柔術</p>
	<p>津田佳和(ツタ ヨシカズ) 1974 生・45 歳 171cm/68kg</p>	<p>柔術紫帯 吹田柔術</p>
	<p>木下徹(キノシタトオル) 1966 生・53 歳 175cm/94kg</p>	<p>柔道初段、柔術紫帯。少林寺拳法茶帯、サンゴ、極真空手少々。</p>
		
		







※七大ルール経験者(特に七大 OB)は、控え選手に回った場合/試合待機時には、審判役もお願いします。
ルール未経験の選手も手が空けば掲示、時計係、副審など自らご協力願います。

あこう堂老齡軍 (Old) 「通称ジジイチーム」

	<p>佐藤茂 S40(1965)生、54歳 174cm/77kg</p>	<p>京大柔道部OB。S62卒「の年齢」。伝説の「昭和京大柔道」最後の生き残り/昭和残留京大兵。世紀末ジジイグラップラー。カメ沼地獄の番人。ブラジリアン柔術、グラップリング。(総合格闘技道場・グラウンドコア)。 審判兼任</p>
	<p>清瀬弘晃(キヨセ・ヒロミツ) S39(1964)生・55歳 168cm/80kg</p>	<p>選手・審判兼任。元・油圧式抱き込み横返し型ゴリラーマン。元・港湾労役用クマ型ロボ。現・川崎重工綱引きクラブ。 九大柔道部OB。「S62卒の年齢→S63卒の予定→実際はH1卒」 工学博士。柔道は3段だけ? 審判兼任</p>
	<p>畠山治樹 (ハタケヤマ・ハルキ) 170cm/64kg S39(1964)生 ・当日はギリギリ54歳</p>	<p>九大柔道部OB (S63卒)。剣道少し。柔道三段 (※講道館)。 日本相撲好き協会所属(冗談)。ザ・サブミッション・スモウレスラー。 ホモサピエンス老齡オス。ヘンジン原人アルムおじん。 あこう堂ちゃんこ番。(会場仕切り兼任) (→※でも翌年は56歳の年)</p>
	<p>長谷部諭 1965生(たぶん54歳)175cm/80kg</p>	<p>東北大柔道部OB・平成元年卒。柔道三段(たぶん)。 ブランク長期。練習少々。 みちのく食い倒れ人形。信州の狂える石地藏(意味不明)。 時計係兼任</p>
	<p>津田剛(ツタ・タツ) 1967生52歳 171cm/100kg</p>	<p>一橋大柔道部OB(平成2卒)。一橋の核弾頭。阿波の人間魚雷「回転」(回天)。圧殺型ローリングドラム。キリンビール樽腹攻撃。 柔道5段(やったっけ?) 審判兼任</p>
	<p>大森泰宏(オモリ・ヤスヒロ) 1967~8年の生れ(たぶん)、51歳 171cm/70kg</p>	<p>東北大柔道部OB・平成2卒。柔道三段(やったっけ?) 元・姫路のトリックサブミッションマスター。跳び十字、脇固め、足関。 巴投げ、小内刈、口車。出場人数あわせ要員 審判兼任</p>

※七大ルール経験者(特に七大OB)は、控え選手に回った場合/試合待機時には、審判役もお願いします。
ルール未経験の選手も手が空けば掲示、時計係、副審など自らご協力願います。

あこう堂中年団 (Middle)

	<p>畠山治樹 (ハタケヤマ・ハルキ) 170cm/64kg S39(1964)生 当日はまだ54歳</p>	<p>九大柔道部OB (S63卒)。剣道少し。柔道三段 (※講道館)。 日本相撲好き協会所属(冗談)。ザ・サブミッション・スモウレスラー。 老齡エイブマン (ape-man)。ヘンジン原人アルムおじん。 あこう堂ちゃんこ番。(会場仕切り兼任)</p>
	<p>三浦孝貴(コウキ) 1969生?50歳 172cm/80kg</p>	<p>空手、ムエタイ、柔道、ブラジリアン柔術、総合格闘技、グラップリング。 さすらいのネイチャー中高年格闘家。闘うオールラウンド・フィード ルド (ロンリー) 軽トラッカー。</p>
	<p>栗林延功(クリバヤシノブ カタ) 1972生・47歳 161cm/67kg</p>	<p>北大柔道部OB、元北海道学生柔道体重別チャンピオン、アマチュア、ボクシング (時計係、審判兼任)</p>
	<p>樋口雄志 1976生・43歳 160cm/58kg</p>	<p>空手、システム、古流武術、ブラジリアン柔術、グラップリング、高専柔 道 (あこう堂)。柔道白帯。整体師。足回しの魔術師。高速ヒップウォー ク。</p>
	<p>東壮一(ヒガシウイチ) 1976年・43歳 161cm/72kg</p>	<p>灘高柔道部/北大柔道部OB/柔道初段 空手、ラグビー、筋トレ。北大柔道部牢名主伝説。アウトロー・ノールー ル・エニタイム・ストリート格闘人生。七大戦用最終分け兵器。 (審判兼任)</p>
	<p>伊是名秀宣 (イシナヒデノブ) 1981生・38歳 167cm/60kg</p>	<p>柔道歴2年 MMA10年</p>

※備考:余剰人員で結成。
他チームが6名に揃った(揃えた)ので、
あこう堂(中年軍 Middle 軍)についても、
別チーム(あこう堂、高齢軍)との共通出場者を1名入れて割り増し、6人に揃えました。
ただし、あこう堂の「中年軍」と「高齢軍」は今回の巴戦の3試合の中では同一チームとみなします。
入れ替えが大幅なだけで、同じあこう堂とみなして下さい(それはそれで矛盾があるのですが)、
諸般の事情です。チーム対抗戦上は、同一とみなした方が丸くおさまります。

※七大ルール経験者(特に七大OB)は、控え選手に回った場合/試合待機時には、審判役もお願いします。
ルール未経験の選手も手が空けば掲示、時計係、副審など自らご協力願います。

「グレイシーバツハ神戸・Gracie Barra Kobe」

	<p>Christopher Vavricka (クリスさん) 193cm/84kg 1982 生・37 歳</p>	<p>柔道 2 段・ブラジリアン柔術紫帯(BJJ: Purple belt)。 ◎ASIA 2019 IBJJF Vice Champion Gi。米・ニュージャージーの巨神兵。 ◎ADCC West Japan Medium Heavyweight Champion ◎Traditional Kung Fu specialist ◎Multiple JBJFF tournaments finalist 進撃の巨大足三角。ザ・ビッグ・レッグ・トライアングル。神大所属研究者</p>
	<p>Serge Vedenev セルゲイさん 186cm/84kg </p>	<p>ブラジリアン柔術茶帯(BJJ: Brown belt)。 ロシアの最終兵器。極北の絞め殺しアナコンダ。氷の大蛇。 ウオッカ・オン・ザ (アーム) ロック (Vodka on the (Arm) lock (Rock)) Japan National No Gi Absolute Champion Asian IBJJF Champion</p>
	<p>Callam A'son (カラムさん) 1991 生・28 歳 77kg (たぶん 180cm 強)</p>	<p>英国出身・ブラジリアン柔術茶帯(BJJ: Brown belt) Ex-Middle East Alliance team Ace member, now fighting for the Red shield. Multiple time IBJJF and UAEJJF medalist “ザ・ブリティッシュ・キラー・ピット・ブル”</p>
	<p>Garrick Low (ガリック・ロー) </p>	<p>ブラジリアン柔術茶帯(BJJ: Brown belt) ノーギ&レッグロックスペシャリスト (no Gi and leg lock specialist) オーストラリアのリアルタスマニアデビル (a real Tasmanian Devil from Australia)</p>
	<p>Fabio Franca 1977 生・42 歳 (ファビオ・フランカ)</p>	<p>ブラジリアン柔術青帯(BJJ: Blue Belt) (×家庭の事情、というか奥さんがコワイので?! 欠場)</p>
	<p>毛利宋玄(ムネハル) 1974 年・45 歳 167cm/71kg</p>	<p>灘高柔道部/早稲田大OB。柔道初段、ブラジリアン柔術青帯、グレイシーバツハ神戸、中国武術 11 年、グラップリング、総合格闘技 (修斗ジム神戸)。柔道整復師。中国拳法整体古武僧。 (※人数合わせで? 所属のグレイシー神戸組に加入)</p>
	<p>糺 信幸(コジノブユキ) 1994 生・25 歳 62kg</p>	<p>柔道初段・ブラジリアン柔術白帯(BJJ: White Belt)</p>

※七大ルール経験者(特に七大 0B)は、控え選手に回った場合/試合待機時には、審判役もお願いします。
ルール未経験の選手も手が空けば掲示、時計係、副審など自らご協力願います。

(※その他：台風順延により解消・消滅したチーム)

- 「藤原組」チーム藤原 (古武術・空手・柔道・柔術など) (消滅)
- JPN 伯式柔術倶楽部 (全員柔道有段者の柔術茶帯&黒帯：7名) (消滅)
- 杉本大輔と北大阪同伴居酒屋研究会(※吹田柔術)→「チーム畳上手」(再結成)

<第三回大会での試合運営について（仮）>

（※以下は案です。実際は現場で事情により適宜変更する場合があります。不評であれば練り直します。ご要望もお寄せください）。

- 試合は5～7人程度の団体戦とする（※両者合意による）。●原則[七大学ルール](#)で施行。
- 審判は七大学ルール経験者が担当（※選手兼任でも可。審判が勝敗に影響しないのが本ルールの特徴である）
- 柔道着を標準とする。

（ただし「両者合意があれば」サンボ着、ブラジリアン柔術着の着用も可。ラッシュガードだけでも帯だけでも可。）

- 抜き勝負でなく、一本勝負のみの点取り戦とする。（※選手の希望と、全員出場できるようにと、運営の都合です）。
- 試合時間は原則5分。ただし両者の合意（と申告）があれば6分制も認める。

一方、以下の条件①～③を目安に、条件の重複次第で、両者の合意により4分、3分、2分制を認める。

- ①満50歳以上の選手の出場、②対戦選手の体重差がおおむね15kg程度に達した場合、③一方のみ白帯・女性・中高生など経験値・実力に差が大きい場合（※これら条件を満たしても両者の希望次第で、5分戦でも6分戦でも可）。
- 1本勝ちの本数で両チームに差がない場合は、チームの技あり本数で決着。

（※技あり本数でも差がない場合は、会場と運営の事情を勘案し、両チームの合議により、

代表戦か、ケサ固め戦とか十字固め戦とか足抜き攻防（サッカーでいうPK戦）か、相撲、指相撲、腕相撲、足相撲、尻相撲、手押し相撲、乳首相撲か、合計体重、合計年齢か、ジャンケン、あみだくじ、コイントスのいずれかで穩便に決める）

- ※他：出場が4チームの場合、勝ち抜けトーナメントか総当りリーグ戦かいずれか合議で決定する場合もある。余裕があれば希望者により全体紅白戦を追加する場合もある。合意次第で抜き勝負にする場合もある。

<七大学ルール以外のルールの採用方針について>

- 対戦チーム間で合意があった場合、「現状の[七大学ルール](#)」よりも禁じ手が少なく、一本決着であり、確立された競技ルールに限り、「古流柔道」の趣旨に合うルールとして採用する場合がある。

（※試してみたい「古流柔道」ルールのある方も、場を提供しますので、この機会をご利用下さい）

（※想定は、絞めアリのスポーツサンボ1本のみルール、足がらみ・ツイスターあり1本のみブラジリアン柔術ルール、QUINTETなどのグラップリング1本勝ちルール、打撃ナシ総合ルールなど。道着着用の有無は問わない。 ※ただし打撃技、武器術は、用具の手間と不測の事態を避けるため除外するものとする）

- 七大学ルール以外のルールの採用試合に関しては、団体戦（点取り戦）の試合数中、過半数に達しないものとする。
- 異種ルールで対戦する選手は、両チーム合議により事前に決定する（※点取り戦にして、かつ事前に対戦選手を決定しないと異種ルールの対戦は成立しない）。
- 七大学ルール以外の試合を希望する場合、両者が合意できる審判員を自ら準備しておくこと（※現場調達で可）。

<補足>（他種ルールも取り入れることについて）

- メリット：

どんな競技の人でも組み技で決着指向の人なら参加できる。（競技のワクを超え、方向性が広がる）

- ・別競技の人とも団体戦が味わえ、交流できる機会になる。
- ・古きを知るだけでなく、新たな試みによる発展も可能。
- ・他競技の人が七大学ルールにかかわり・興味をもってもらえたり、七大の人にとってはその逆もある（かもしれない）。

- 考えられる懸念とそれに対する反論：

・ヒールホールド、カニバサミ、河津掛け、ネックロックなど「一部で危険とされる技」で怪我が生じても、大会保険を超えては対応困難です。それでも両者が別ルールに合意する条件下での話。

・もともと「七大学ルールの大会」とは謳ってません。あくまで「古流柔道大会」。その中でも、普段一般には接する機会の少ない七大学ルールが過半数を占めることになる。他分野の方への普及、宣伝の場ともなるはずである。

お互いにいいところを吸収すればよい。

・自由で決着をつけるものなら「古流柔道」から逸脱することはない。サンボやブラジリアン柔術などいろんな競技が、古流柔術を乱取アリに合流・合意させたおおもとの「柔道」に影響を受けている。全てはここから始まった。

（※おおもとの柔道＝古流柔道は、高専柔道に残ったのみ、それが現代版として残っているのが七大学ルールである）

- ・もともと武技や護身術に競技の境目などない。一方で、競技化のおおもと「古流柔道」には敬意を表し、学ぶべき。
- ・他競技も「古流柔道」の観点に立ち戻れる機会である。柔道の熟練者にとっては新たな技術の進展の場ともなる。それは、嘉納が果たそうとしてなし得なかった「柔道」のあるべき姿かもしれない。

第三回古流柔道大会・全般の報告<主催者自画自賛>

今回は10月12日開催予定のところ台風19号による年末への延期もあり、当初想定より参加選手総数は少々減った。そのため変則になったが、3チームの巴戦として行った。

しかし、結果として不足していた審判要員なども身内の選手兼任でまかなうことができた。また、時間に余裕ができたため希望者全員参加の紅白戦（対抗戦）も行ったが、これは第三回大会にして初めてこのルール本来の「抜き勝負」で行うことができた。未経験者にもこのルールの醍醐味を多少味わってもらえたのではないかな。

また今回、初めて大会保険の対応が必要な大きな故障者も出なかった。試合内容としては、実力差のある一方的な試合もあったが、それはそれで一本決着の極め技がみられたし、中には実力者同士の攻防もあった。競技としても、柔道やブラジリアン柔術だけでなく、レスリングやサンボ、総合格闘技など各競技の経験者も出場し、柔道の固さや抑え込み、柔術の多彩な極め技、足回しによる防御、サンボの組手、レスリング技術など特徴的な技術もみられたように思う。交流にもなり、お互いに刺激になったのではないかな。

このルール（七大ルール・高専柔道）は、単に寝技に特化した古い柔道ではない。現在の柔道では使えない技術も残し、各種競技のおおもとになったオリジナルの柔道であり、武術であり、各種競技が交流可能で、絞め関節技以外に、投げ、抑え込みの一本など根幹的な要素があり、比較的安全な技術体系でもある。このルール採用により参加者を募った意義もあったように思う。

今回は海外勢を中心としたチームの参加もあった。経験者には継続・研究・研鑽の場を提供し、未経験者にもこのルールを体験していただき、これから経験したい新人・学生などへ向けて普及、宣伝するという、裾野の広がりに対しても多少の役目は果たせたのではないかな。延期で歳の瀬の開催となった割には成功といってよいように思う。参加者、ご協力者に感謝したい。

●試合方式について

- ・最初のチーム戦は6名の3チームによる巴戦で、これは点取り試合とした。
- ・最後に希望者で行った全体紅白戦の抜き勝負では、時間の都合で試合時間3分とした。

<裏話>

実際のところ、出場選手総数は23人。台風での延期により、チームとしての応募は減り、チーム参戦は2つだけ（各6名程度）。

他の参加者は、あこう堂関係、七大関係、個人参加。なので人数調節はできるが、全体を6人4チームに整理するには1人不足。7人3チームだと余るし、チームにとっては選手を追加されてはまともりもない。

結局、6名3チームの巴戦とし、あこう堂は、1戦目は、高齢者（全員50代）でまとめ「あこう堂（高齢軍）」とし、もう1戦では、あこう堂主宰以外の全員を余剰の5名と入れ替え「あこう堂（中年軍）」とした。

大幅入れ替えだが同一チームとみなしていただきたい。これで3チームによる巴戦も成り立ち、選手は全員が参加可能となり、高齢者は1試合参加だけで後は審判にまわり、試合進行（審判）もなんとか成り立った。選手入れ替えについて大会側の規定はしてなかったが、現状のところ、試合というより交流、経験が主眼なので目をつぶっていただきたい。（結果として、予想どおり「あこう堂」は敗退し問題なし）。

- ・対戦組み合わせ：

その場で適当に。点取り戦の場合、事前に相手を決定する。相手見て入れ替えもあり。勝ち負けより有意義な試合になるように。

- ・試合時間：

チーム戦の点取り試合は標準5分とした。ただし理由を申告して両者合意すれば1分ずつ短縮（例：50歳超えたから、相手より体重が軽すぎるから、自分だけ白帯だから・・・）。逆に希望があれば6分制も可能。

＜試合戦評＞

巴戦第一試合。七大OB5名&三商大（一橋大）OB1名。6名全員50代でそろえた「あこう堂高齢軍（通称ジジ軍）」に対するは、柔道・柔術ほか各種競技の実力者が道場をまたいで集まった「チーム畳上手軍」。

●先鋒戦。「チーム畳上手」今大会最重量120kgの柔道5段坂井に対して、「高齢軍」80kgの長谷部は、体重差にもかかわらず試合時間5分を選択する男気（?!）。

堂々正対に引き込むが、練習不足の老体（54歳）に坂井の体重を受け続け、絞りだすようなうめき声とともに、最後はかつぎからの抑え込みで圧殺される。

はやくも高齢軍に暗雲。



●次鋒戦。5分制。佐藤（高齢軍）Vs. 福田（畳上手）。前回（第二回大会）では撮影係に回った「カメ沼地獄の番人」佐藤の登場。柔道5段の福田の小外刈りに佐藤カメになるが、福田の十字固め狙いにあわせて上になる。ならばと福田、下から小手絞り、コムロックと攻めるが、今も柔術など練習は続けている伝説の「昭和残留京大兵」佐藤の守備は固い。時間切れ。

●3戦目。木下（畳上手）Vs. 清瀬（高齢軍）。両軍50歳代で大会唯一の50代対決。前回は主審担当、もはやロートル？清瀬が50代の権利を行使して4分制を選択。しかし、清瀬、片エリ片ソデで引き込むや、そのまま帯もとって大型（94kg）の木下を抱き込み横返し。足を抜いての抑え込み。熟練の型どおり、手順どおり。現役時代の片りんを見せた。4分制を選んだが秒殺で関係なし。



高齢軍、1勝返して1-1のタイ。ただし、清瀬は「もう1試合なんて無理」とお疲れの様子。



●4戦目。5分戦。柔道4段の表原（畳上手）、巴投げを仕掛けるが、決まらず。大森（高齢軍）は両足担ぎに出るがこれも攻めきず。逆に表原が大森を引きつづいて上になりバックもとる。老いたりとはいえ大森の脇は固いが、しよせん人数合わせ要員。もはや息切れ。表原がそのまま膝とって裏返し、抑え込み。50歳代を理由に、4分戦も選べた大森だが、5分戦を選択したのが失敗か？しかし、「相手に十分楽しんでもらいたかったから、あえて5分にした」とのこと。

畳上手軍が2-1とリード。

●5戦目（副将戦）5分制。

レスリングスタイル（それともサンボ？）の三好（畳上手）には、畠山（高齢軍）の再三の巴投げも横倒しまで、足取りも決まらず。三好の腕返しはすかさず自滅するが三好逃れる。三好の足取りは畠山しのぐ。三好の巻き投げに合わせて、畠山下になり正対したが、クロウズドで抱え、そのまま両者攻め手なく時間切れ。

スコア変わらず。畳上手軍2-1のまま。





●6戦目（大将戦）。5分制。両軍とも津田の登場。「畳上手」軽量68kgの津田が引き込むところ、年齢とともに大型化、現在100kg超の「高齢軍」重量級の津田が、片足かつぎで上に回り込み、そのまま上四方で圧殺。

点取り戦は、これで両軍2-2のタイで終わり、お互い面目を保つ？

高齢軍は自分の型があるもの、練習しているものと、人数合わせ要員との差が出たか。しかし、ある意味50代を6人そろえての出場が快挙？畳上手軍はルール初体験のはずだがよく対応した。出場自体に敬意を表したい。決着の代表戦などはナシ。巴戦の次戦を待つ。

●巴戦、第二試合は、 그레이シーバツハ神戸Vs.「あこう堂中年軍」。

嘉納の生んだオリジナル柔道であり、各種競技の原点である「古流柔道」の場に、前田光世の伝承によるブラジリアン柔術の嫡流、 그레이シー軍が初登場。対するは、このルールでは本家（？）、高専柔道の継承者（？）あこう堂。伝説のマラカナンスタジアム、木村政彦Vs. エリオ・ 그레이シー戦の再来か？残念ながらあこう堂は、半リタイヤ組や柔道・柔術の白帯も含む二線級だが、中年なりに、何らかの武道・競技の手練れは多いので、意地は見せて欲しいところ。

ちなみに、各種事情により、あこう堂は「高齢軍」から大幅入れ替えになっているがチーム戦としては、どちらのあこう堂もいちおう「同一チーム」とみなす。

●先鋒戦。5分制。

「あこう堂中年軍」では最若手、唯一の30代。

ただし、総合格闘技なら強豪だが、

柔道では白帯の伊是名の167cm60kgの前に、

「 그레이シー軍」クリス、

柔道2段（柔術紫帯）、193cm84kgがそびえ立つ。



クリスの大内刈りに伊是名、下になるが両者嫌って立つ。

伊是名、背負い投げからクリスの股をくぐりバックをとろうとするが、クリス下になって正対。長い手足でからめとるようにシザーススイープに返す。

そのまま肩を極め、足を抜き横四方で抑え込み一本。

柔術だけでなく柔道家でもあるクリス。抑え込みも型どおり見事。

그레이シー軍、幸先よく1勝目

●次鋒戦（5分制）毛利（ 그레이シー軍）Vs. 三浦（あこう堂）。

実は、旧知の両者、あこう堂でも練習している間柄

（※対戦組み合わせ変えりゃよかったのに?!）

毛利の一本背負いを三浦裏投げで返すが、主審のコールなし。（実際は技あり以上か？）

毛利の引き込みは三浦嫌って立つ。毛利の内股を三浦もたも裏投げ（これもコールはなし）。



さらに逃れる毛利のバックを取るが、これを毛利が前に落す。三浦、毛利の股をくぐって返そうとする。毛利これをしのいで上から攻めんとするうちに時間。

（※主審（K君）が昔の七大戦の感覚なのか、老人ボケか、立ち技の判定に厳しかった）

引き分けでスコア変わらず。

● 3 戦目。4 分制。

あこう堂軍・樋口は打撃系ならともかく、柔道・柔術は白帯の小兵 160cm。対するグレイシー軍セルゲイはロシアの巨砲、186cm、84kg。打撃出身でブラジリアン柔術も茶帯（とうに黒帯の実力）。グラップリング（ノーギ）力はさらに強力でチャンピオン歴多数。長い手足を利した極めは脅威である。ここは白帯でかつ体重58kgの樋口が4分制を選択。（※理由2つあるので3分戦でも選べたのだが、そこは男気か、プライドか）



序盤は樋口、フットワークでかわすが、さすがに「場外」に出ては注意。やむなく引き込めば、セルゲイ、難なく上にまわる。

本来、樋口の脚は、驚異的に効くのだが、サイズ感の差も大きすぎた。腕をからめとられ、よく耐えたものの、最後は十字固めに散る。

これでグレイシー軍2-0

● 4 戦目。5 分戦。

グレイシー軍で最も小柄な糺（コウジ）は柔道初段、柔術は白帯。糺の背負い投げにあわせ、畠山（あこう堂）一旦、下で正対するや、片エリ片ソデでそのまま返し、腕を固めながら上四方に抑え込み。

初心者相手とはいえ、いちおうは一矢報いた。ただしスコア2-1。依然、グレイシー軍リード。



● 5 戦目（副将戦）5 分制。

「1試合くらいならなんとか・・・」と出場に踏み切った栗林（あこう堂中年組）。学生時代は北海道チャンピオンとはいえ半リタイヤである。クリス（グレイシー軍）に引き込まれ、前三角をしのごうとするが、身長差もあるせいか？（推定で161cmVs. 180cm強）持ち上げきれない。持ち上げを試みたのがミスか？徐々に深く三角に絞られ、マイッタ。

これでスコアは3-1。グレイシー軍、勝利確定となる。

● 6 戦目（大将戦）。5 分制。

グレッグ・ロー（グレイシー軍）に対するは、東（あこう堂中年軍）。七大OBの意地をみせたいところ。ローが引き込み、下から、腕関節、小手絞りと攻めるが、東は腰についたまましのぐ。さすがに東の守備は固く、時間切れ。



スコアは3-1で変わらず。「高専柔道」（あこう堂中年軍）は、自らのルールの試合でグレイシーの軍門に下る。

というか、相手として歯ごたえがなくて申し訳ないが、4名ほどは、普段乱取りやってないか、打撃系とか、総合とか、畑違いの選手であるのでやむを得ない。むしろ試合を成立させただけマシ。逆にグレイシー軍はこのルール初体験ながら、柔術（柔道も）の技術と実力をみせた。これでグレイシー軍1勝目。あこう堂軍は1分1敗で巴戦を終了。

ほぼ総入れ替え（1名を除く）のあこう堂2試合を同一チームにみなすのはおかしいが、高齢者は1試合が限界という者もあり、七大経験者として審判役にまわる必要もある。参加者には全員出場してもらいたい。種々の事情で目をつぶっていただきたい。ある意味、ズルで2戦出場したあこう堂チームは敗退したため、チーム対抗の成績としては丸くおさまった。

次は巴戦第三試合。 그레이シーバツハ神戸 Vs. チーム畳上手。実は台風で延期になった今大会、チームメンバーを揃えて応募してくれたのは、この2チームだけとなった。人数調節や交流や体験というおもてなし機能のあこや堂チームとの対戦とは異なって、これこそ見もの。両チームとも柔道、柔術、グラップリング（サブミッションレスリング）、サンボ、その他各種競技経験者は多いが、本ルールの出身者、経験者ではない。どう試合展開になるか、どういう経験をして、意義を理解していただけるかどうか。

●先鋒戦。5分制。

「チーム畳上手軍」は176cm120kgの「アンコ型」坂井。
 「 그레이シー軍」は193cm84kgと「ソップ型」のクリス。
 両者対照的な体形の今大会、最重量 Vs. 最長身対決。
 立って勝負したい柔道5段の坂井だが、柔術だけでなく、
 柔道も2段、長身のクリスを攻め切れない。
 ならばとクリス、引き込むや、前三角絞めにとらえて一本。
 長い脚で120kgの体躯を難なくからめとった。



(※むしろ足の長さが余るくらい)

「ザ・ビッグ・レッグ・トライアングル」「ニュージャージーの巨大足三角」の本領発揮。

まず 그레이シー軍1勝。



●次鋒戦。5分制。

毛利 (그레이シー軍) Vs. 福田 (畳上手)。
 柔道5段の福田が巴投げの「技あり」(やや甘め?)から、
 十字固め、下から小手絞りと攻める。

毛利、一度は逃れたが、福田再度の小手絞りから
 そのまま返して絞め上げれば、今度はマイッタ。

今度は「畳上手軍」の勝利で1勝1敗と追い付く。

●3戦目。5分制。

그레이シー軍セルゲイは長身(186cm)を生かし、
 引き込みから津田(畳上手軍)の足を取って起き上がれば、
 そのまま馬乗り前三角の体勢。長い脚をスムーズにフックする。
 津田よく耐えるが最後は十字に変化して一本。

これで 그레이シー軍の2勝1敗



●4戦目。5分戦。

柔術茶帯の三好(畳上手軍)、小柄な糺(コウジ)(柔術白帯、柔道初段)を引き込んで、
 起き上がり、逃れんとする糺のバックをとる。返して足抜き体勢からベースボールチョーク(バット絞め)の形。じりじりと絞めを効かせながら足を抜き、抑え込んで上四方に回ったところで糺がマイッタ。
 これで「畳上手軍」が追い付き、両軍2勝2敗となる。

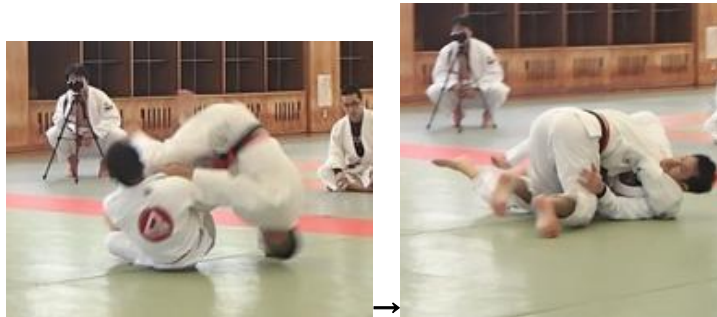
●5戦目（副将戦）5分制。

カラム（ 그레이シー軍）、木下（ 畳上手軍）を引き込むや即座に小手絞り。

94kgと大型の木下の胴をクローズドにからんだまま徐々に深く、最後は脇にまで入れて絞り上げれば、耐えかねた木下マイッタ。



またも 그레이シー軍が先行、3勝2敗で大将戦をむかえる。



●6戦目（大将戦）。5分制。

ガリック・ロー（ 그레이シーバツハ神戸）引き込めば、柔道4段、柔術も茶帯の表原（ 畳上手軍）、ならばと、上からベリンボロを仕掛ける。

足が外れたが、そのまま上にまわって足を越える。横四方から上四方に変化して抑え込み一本。両者とも柔術茶帯の実力者だが、ここは「柔道力」「抑え込み力」の差か。

（※しかし普段、抑え込みの一本はナシでやってる柔術家が不慣れなルールに出てくれたこと自体ありがたい。敬意を表します）。

試合は、大将戦で畳上手軍が追い付き、両軍3勝3敗の同点で終わる。

いずれのチームも個人も、普段は関係のない初体験のルールにもかかわらず

この歳の瀬にチームとして参戦してくれ、実力をを見せてくれた。それ自体が有難いことです。

.....

●紅白戦（希望者全員参加対抗戦）

会場の時間には余裕があるので、あとは希望者全員参加の紅白戦を行うこととなる。

これに関しては、第三回大会にして初めて、高専柔道・七帝柔道の本来の形式で醍醐味である「抜き勝負」とした。都合で試合時間は3分としたが、とりあえずこのルールの雰囲気を楽しみたい。

実力者も多いので、どんな対戦、展開が見られるか？

運営側でランダムに名前を並べ始めたのを見て、ワタクシが（主催者として）なんとなく、小型選手を前に、大型選手を後へと多少いじった。ちなみに事前にパンフを作成しているのは、体格や組み合わせ、条件など有意義になるよう、満足してもらえよう、把握しておくためもある。

●先鋒戦。伊是名（赤組）Vs. 樋口（白組）。紅白どちらも自分の領域では一流選手だが、この分野では、両者白帯で登場した小兵同士の対戦。



樋口引き込んでデラヒーバ、足がらみなど足を利かせる。伊是名のかつぎ、さばきに、樋口はスパイダー、インバーテッドなど、よく脚を回して守り切った（3分）。

両者白帯出場なので気づかれないが、実は伊是名も強豪。

しかし樋口と同じく小兵で体重も近かったせいか、

樋口は、古流柔道大会3回目の出場にして

初めて分け切って「足回しの魔術師」の本領をみせることができた。

●次鋒戦。

毛利（紅軍）Vs. 佐藤（白軍）。両者、所属はそれぞれの格闘技道場だが、あこう堂でも知った仲ではある。様子見から佐藤の引き込みは毛利嫌って立つ。今度は佐藤、腕返し（袖返し）を狙うが自滅。畳に落ちた佐藤が、うめき声をあげて試合中止。アバラを捻じったか、毛利の肘が入ったか？異常な呼吸音で心配されたが、大事には至らなかったようだ。ちなみに「大会医師」伊藤先生のドクターチェックでは「湿布でも貼っておけ」との診断（医師としてより、同窓の柔道部の先輩（京大）としてか？）。



試合は続行不能で痛み分け。結果として、ここまで両チーム分け。

●3戦目。



両者グレイシーバウハ神戸の同門対決になるが、白組・糺は初心者で実力差は明らか。

紅組カラム、引き込むや糺を前三角にとらえ、エリ、頭、自分の脚と相手をコントロールしながら徐々に深くかけなおす。

横倒しになった糺の頭をそっと前屈させれば三角絞め決まって、糺マイッタ。紅組1点リード。

●4戦目。カラムは2人目の対戦相手・東（白組）も引き込み、短躰（161cm）の東をクローズドに抱え込み、下から、小手絞り、突っ込み締めなどで攻勢。東、1度目の小手絞りは逃れたが、2度目はしっかり絞り上げられ、終了間際（3分制）、しのぐか、外すか？見守る間に、締め落とされる。

七大・高専柔道の伝統か？北大OBの意地か？、日本柔道の誇りか？マイッタせず、結構深く落ちて心配される。

守りが固い東まで極めきるとは、さすが、「ザ・ブリッシュ・キラー・ピット・ブル」の面目躍如。

これでカラムは本大会4勝目（※結局、カラムが大会最多勝）。カラムの2人抜きで紅組2つリードとなる。



●5戦目。カラムの3人目に対するは白組、畠山。守りの固い東までも抜いたカラムだが、さして疲れもみせず。50代で本日3戦目の畠山を引き込み下から返しにかかる。

これを畠山が上から足をさばく攻防のうち、カラム下から足を絡んでバック狙いに移行。畠山これをインバーテッドでしのぎ、正対に戻して下になる。畠山さらに下から足取りにでるが、これをカラム上から抱えて後転。畠山外せば、今度はカラム下での正対に戻る。再度、畠山の上からの脚のさばきに合わせて、カラムは下から裏三角の体勢をつくる。

畠山これを逃れて正対に戻せば、今度はカラム、バック狙い。畠山がこれを前に落としかけたあたりで時間切れ（3分）。全体に柔術っぽい？動きのある展開。

20代で連戦3人目でも攻めに出るカラムと50代で様子見の畠山でちょうどかみ合ったか？

●6試合目

木下（紅組；吹田柔術）Vs. 福田（白組）チーム戦時は同じ畳上手軍だった両者の対戦。柔道5段の福田、払い腰に出るが50代で本日3戦目の木下、これをしのぎ、福田が下になる。

福田は、下からも小手絞りに攻めるが、木下なんとかこれを外し、上になる。





今度は木下、上から、福田を抱え込んで反転させんとするが、福田が競り勝って浴びせ倒す。さらに上から腕がらみに絞り上げれば木下たまたまマイッタ。

白組、1勝返して2-1。赤のリードは1つに縮まった。

●7戦目。白組・福田の2人目の対戦相手は、アメリカ・ニュージャージより巨神兵上陸。ザ・ビッグ・レッグ・トライアングル。進撃の巨大足三角。紅組・193cmのクリス（グレイシーバツハ神戸）。クリス引き込むが福田バランスよく返らない。ならばとクリス長い脚でからみ倒して上になり、足抜きの状態。これを福田がクリスの足抜きに合わせて返して



上になり腰に着けば、今度はクリス、長い脚を利したデラヒーバからのバックテイク

さらに上になって、肩を固めにかかったところで時間切れ（3分）。福田は1人抜きに続いて分け切ったが、実力者同士の攻防、3分は短い。

●8戦目

赤組、ガリック・ローVs. 白組セルゲイ。またも両者グレイシーバツハ神戸の同門対決。両者柔術茶帯の実力者だが、体格差はかなりある。（セルゲイ186cmに対し、ローは、170cm弱?）。

ローが、タックルにでるが、セルゲイ、がぶって上から潰し、そのままスピニングチョーク（腕三角締め/裏肩固め）

（※私の理解では、アナコンダチョークでなく、ダースチョークか?）

体格差と腕の長さのおかげか、道着着用もものともせず。ノーギでの得意技をジャケットありでも楽々極めた。さすが「ロシアの最終兵器」、「極北の絞め殺しアナコンダ」の本領発揮。「オーストラリアのリアル・タスマニアンデビル」ガリック・ローも力なくマイッタ。これで白組2-2のタイに追い付く。



●9戦目：そそり立つロシアの壁に対して、満を持しての登場は、紅組・オールラウンダー三浦。両者とも打撃系出身で

かつ、むしろノーギ（道着ナシ）のスペシャリスト対決。

関西クイントットでスピニングチョークが猛威を振るったセルゲイ（グレイシーバツハ神戸）との対戦は、三浦としても想定中（熱望中?）のところ、一足先に道着あり、「高専柔道」での対戦となった。

レスリングの組手争いから三浦がタックル（双手刈り）にできれば、まさかの巨城陥落。セルゲイの長躯が畳に沈む。

いまや国際柔道では反則になった「古流柔道ならではの」技アリ。スタンドでのレスリング力をみせる。そのまま上体を固めにかかるが、さすがにセルゲイ、正対に戻し、さらには、長い脚を利用して肘をはったたまの三浦の腕を下から前三角にとらえる。

ヒジ関節も狙うが、三浦これをよく防御、外して上から攻めんとしたところで時間切れ（3分）

3分とはいえ、むしろ攻勢のうちにロシアの巨砲を止めた。

勝負は引き分けでスコアは2-2のタイのまま。大将戦に突入。





● 10戦目。8人制となったこの紅白戦、両軍、大将の登場。
今大会の最重量&最高段者対決で決着なるか？

紅組・津田（100kg+α）Vs. 白組・坂井（120kg）。
阿波の”回転”人間魚雷 Vs. 阿波の極悪海坊主という徳島アウトレイジ対決。（※見た目はともかく一橋大卒（柔道）と阪大卒（空手）の正業です。念のため・・・）



柔道5段で重量級の両者、なかなか立ち技を仕掛けきれないが、50代・津田が支えつり込み足（っぽい捨て身技？）で40代・坂井を前につぶし、寝業に持ち込んで、坂井のバックをとる。しかし、100kg+αの津田でも120kgの坂井の腰はなかなか極まらない。

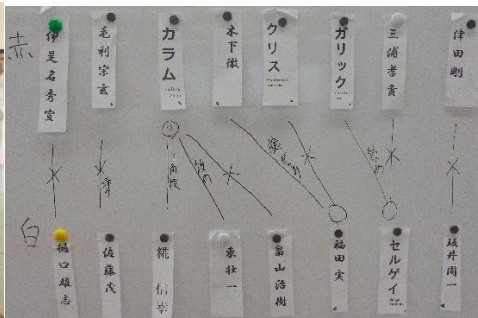
寝業は避けたい坂井。スキをついて立ちかけるが、両者重ねモチで共倒れ。（※鉄筋コンクリートの会場が揺れて、観衆どよめく）
今度は、津田、脇をすくいにかかるがこれも難しい。



スキをついた坂井が再度立ち上がり、今度は、合計2百数十キロのおんぶがギリギリ成立。（※観衆から拍手とどよめきとなぜか笑い）

マテとなって、立って再開だが、もはや残り時間5秒。
時間切れで引き分け（3分制）。動きはないが重量感があった。
この大将戦の引き分けもより紅白戦も引き分け。

ただし、上級者同士の攻防や他流の技術も見られ、
試合自体はそれぞれ楽しめたとし、技術交流や刺激にはなったと思う。



(ルール説明)

(全体紅白戦)



(表彰／優勝チーム)

(全体写真：一部選手は早退で減ってます)

全体懇親会

<結果まとめ>

●チーム巴戦3試合（点取り試合：原則5分戦）

- ・チーム畳上手V s. あこう堂（※高齢軍:Old）2-2：引き分け。
 - ・グレイシーバツハ神戸V s. あこう堂（※中年軍:Middle）3-1：グレイシーの勝利
 - ・グレイシーバツハ神戸V s. チーム畳上手3-3：引き分け
- よって・・・以下のように決定します。

- | |
|-----------------------------------|
| 1位：グレイシーバツハ神戸（1勝1分）（※個人勝利は計6勝） |
| 2位：チーム畳上手（2分）（※個人勝利は計5勝） |
| 3位：あこう堂（高齢軍&中年軍）（1分1敗）（※個人勝利は計3勝） |

どのチームも面目は保ったのではないかと。あこう堂の高齢者は連戦を避けたが、その分の負けは、あこう堂（中年軍）で引き受けた。おかげでチーム戦としては決着がついたし、それ以外は全て引き分け決着である。

試合順が違ったら、（あこう堂中年軍と対戦した方が勝った可能性が高く？）

結果も違ったかもしれないが、運も実力のうち？として、目をつぶっていただきたい。

グレイシー軍の強烈な極め技をまのあたりにした方はその実力を納得しただろう。

主催者の気遣いと切り回し（？）でなんとか交流、体験は成り立ち、全員出場できて、審判も含めて運営も成り立たせた。対戦自体は有意義であったということでご勘弁いただきたい。

●全体対抗戦（紅白戦）（希望者全員参加：抜き勝負、3分制）

赤2勝、白2勝。大将戦引き分け

●チーム戦&紅白戦を通じた個人の成績上位者

（グレイシーバツハ神戸より）

- ・カラム（Callam A'son）4勝1分
 - ・セルゲイ（Serge Vedenev）3勝1分
 - ・クリス（Chrisopher Vavricka）2勝1分
- （チーム畳上手より）
- ・表原宏和（綜合格闘技道場コブラ会所属）2勝
 - ・福田実（ゴロッタ柔術アカデミー所属）2勝2分

<補足>

閉会式では、仁木先生から「これからも修行に励むように」とのお言葉もいただきました。

表彰では、チーム優勝の「グレイシーバツハ神戸」に、持ち回り優勝カップ（写真撮影用で、保管はあこう堂）と、持ち帰り用優勝カップを贈呈。個人優秀賞の選手にもそれぞれ記念カップを贈呈。



なお個人優秀賞の表彰については、会場では諸事情により3名にしかお渡しできなかったため、残り2名にはおつて同等品を送付しました。（ここにご報告とおわびいたします）

その他の各種賞品は、2勝の選手、1勝の選手・・・と成績順に前に出て欲しい物品を選択してもらう方式にした。（選手が当初想定より減ったせいもあるが、この簡易方式の方が運営側も楽だし、選手にも公平で希望の品が手に入っていいかもしれない）

<振り返って>

●運営について主催者として：

本来は、個人開催（主催）でなく、できれば公的な方式で開催して欲しいところ。そうなれば、長続きするし、主催者個人の負担も減るし、運営と選手を兼任して自らも出場する際の気遣いもない。

そこで、前回からいろいろ考えたり試みたりはしたが、結局、そんな「公的機関」などないし、もちろん代わって引き受ける個人もない。組織化するにも協力者も足りないし、システムもできていない。また「公的開催」でなくても、どこかに後援してもらったり、関係者、参加者全員で負担（金銭面を含め）するような方式にしようとするれば、結局は逆に、主催者個人の気遣い、根回し、作業、連絡の手間が増えるだけ。

なので、今のところ、あこう堂（というか個人）で主催して、作業的にも金銭的にも全て負担した方がかえって楽。支援者に対する義務感なども生じない。この方式がいちばんよいというのが結論である。

試合に向けての準備（段取り、根回し、各種下準備、資料作成など）も基本的には全て個人で済ませようと思う。ある意味、単に個人の考える道楽なのであるから、参加いただけるだけでありがたい。

ただし、試合まわりの審判や時計（記録、掲示や撮影も含め）はどうしても人手が必要であるし、現状も足りていない。今回も1試合場で済んだので、選手兼任でなんとか間に合わせたが、本来ではない。なのであこう堂関係者、ルール経験者（七大会OBの方など）その他賛同いただける方には、今後ともご協力を願いたい。

いずれにせよ、現状では私が個人的に無理になった時点で、本大会も消滅することをお断りしておきます。代わって主催してくれる方がおられれば、おまかせし私は協力にまわります。よろしくお願い申し上げます。

●選手個人として：

台風で延期になったおかげで治療に通いつめている間に、五十肩（おそらく）や腱鞘炎（仕事による）など種々の故障の影響も減ってきて体調としては第三回大会にして一番マシ。直前には準備の手間（と仕事）で寝不足になったが、前夜だけは早めに就寝することで、当日は体調面の不安もなかった。ただし、主催しながら選手として心置きなく「楽しむ」のは無理であることも再確認。各種気遣いで集中もできないし、結局試合に出てもエンジンがかかる前に終わってしまった。ただし、力んでないせいかわがもしなかった。体調管理に努めれば、還暦まであと数年、出場自体は、主催兼選手でも可能かもしれない？

●報告記者として：

もともとは初回の雑誌掲載用に始めたもの。今回は予定外の歳の瀬開催で参加も減ったし、軽く書くつもりでしたが、結局、三浦 Vs. セルゲイ戦あたりで興が乗り、振り返って書き直しました。ただ、今回の選手情報の聴取もギリギリでした。情報はお早めにお伝えの上、内容などご要望があればご指摘ください。

●あこう堂主宰として：

自陣が手薄。若手がない。総出でも選手もスタッフも足りない。課題山積だが、とりあえず普段の練習の場、試合の場の提供を続けながら維持はしたい。

希望としては、あこう堂に陣容がそろい、他チームの人数調節機能としてではなく通常にチームとして出場し、当日のチーム編成や試合方式、メンバー組み換え、審判要員など運営の気遣いもなく、個人的に選手として試合に集中できる状態にしたい。そもそも応募も早く締め切ることができて正規な大会の形態をとれば報道も要請できます。そうなればこのルールの宣伝にもつながるでしょう。ご協力お願いします・・・

<今後>

●ルールについて

<全般>「古流柔道」をうたい、高専柔道の現代版、七大学ルールで行っている。他にはないこのルール（七大会ルール）で開催することに意義があるように思う。一般には寝技だけの柔道という認識であろうが、内向きでなく視点を格闘技界全体に広げた方がむしろ意義の大きさがわかる。

投げと抑え込みによる一本があることで、武技の根幹である制圧のための基礎技術、体幹が練られる。寝技への引き込みや寝技の継続が自由なだけでなく、投げについても足をとった攻めも守りも自由。レスリングや相撲の技、組手も自由である。サンボやブラジリアン柔術のような足関節技は禁止だが、柔術のように体勢だけ

で反則ということではなく、体勢をとること自体は自由である。このように、攻防や形態の自由度が高く、絞め、関節もあることで格闘技、護身術への応用も容易である。一方で足関節技などの危険技は省かれているので怪我の危険性は少ない、一本決着は取り組みやすく、わかりやすいなど、基礎を構築するのによいと思う。

嘉納の設立した「柔道」の主眼は、教育的側面以外に武技の観点では、①修練のため危険技のみを廃止、②各種技術の取り込みによる総合武術化、の2つがあり、さらにそこからの進展を意図していたように思う。しかし、現在の国際柔道ではその設立時の精神はどちらも廃れ、逆行さえしているのではないか。進展はともかく、少なくとも高専柔道には寝技の規制さえなく、乱取りを可能にするため古流柔術から危険技を廃しただけの設立時の柔道が変わらずに残った。そして現在、それを継承するのは、七大柔道しかない。

各種競技のおおもとになった根幹的技術のまま、その後も危険技が省かれただけである。現代でもサンボ、レスリング、柔道、柔術など各種競技者が共通して競えるゆえんを考える。投げで勝負したい柔道家、倒して抑え込むレスラー、投げて迅速に極めるサンビスト、引き込んで寝技で仕留めたい・分け切りたい寝業師など、どなたも得意分野で勝負可能であろう。道着の利用度、はだけ具合もブラジリアン柔術とサンボの間であり、関節技は、柔道の肘関節だけなので柔道家、サンビスト、柔術家に共通で危険性も少ないなど、共通して競うにも適した最大公約数的ルールである。

成立の歴史的経緯も含め、各種競技のルールも変遷する現代にこそ立ち返るべき意義深いものではないか。

<現実的な話>

「古流柔道」とうたっているため、現行の七大ルールより自由度の高い、もともとのルール（足関節アリ、河津掛け、カニバサミの解禁など）も想定しないではないが、そうすると七大柔道のみ、柔道ルールのみ選手が出にくいし、審判や協力も頼みにくい。やはり現時点では七大ルール採用が無難かもしれない。

<今後の展望>

試みとしては、もっと自由度が高いルールの採用も検討はしている。実は、道着の有無についても個人的にはこだわっていない（競技間で道着の形態や、試合中の脱がしの程度、裾の利用、帯のゆるさや帯を解いたまま継続することなどで相違があったり、もめる原因になるくらいなら道着はない方がよいと個人的には思う）。

現在のところ、「対戦する両者が合意し」、「ルールが確立されており」、「審判を確保しており」、「現行の七大ルールよりも自由度が高く、技と決まり手が増え（減らず）」、「勝敗が一本決着のみである」場合は、「チーム戦の全試合の過半を超えない限り」、そのルールを採用可能としている（一部の試合なら試みていいと思う）。

第三回大会では、別ルールの申し出はなかったが、将来的に、さらに自由なルールの採用は、熟練者にとっては、技術的な進展かもしれないし、嘉納治五郎の果たそうとして果たし得なかった「目指すべき総合武道・総合武術」である柔道の姿となるかもしれない（と思っている）。

●最後に（御礼と展望）:

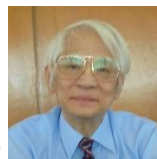
金銭的な支援は受けなかつたつもりでしたが、一部七大OBの方からご支援いただきました。匿名でのご支援ということで掲載・公表については最終ページの記載で「七大OB（匿名）有志一同」として済ませたこととさせていただきます。ただし、ここにも一言御礼申し上げます。また、ご都合をつけてご参加いただいた方、当日、会場にてお手伝いいただいた皆様もありがとうございました。

形態や方式はともかく、この有意義なルールを練習してもらおうおうにも他にはその試合機会すらないので、できる限り続けたいと思います。上記で説明した格闘技的な意味だけでなく、七大柔道の内部からみても、このような場を設けることは、このルールの宣伝、普及、継続、発展など裾野の広がりになんらかの役目を果たせるのではないのでしょうか。

次回もなんとか開催するつもりです。七大OBの方はこのルール経験者として実力を示せるチームで出場し、「高専柔道」Vs.「グレイシー柔術」？など、機会を生かして技術交流していただけることを望んでおります。なお、代わって主催してくれる方がいれば全て任せます。私も協力しますので、是非お申し出ください。

伊藤整形外科

月火水木金 09:00~13:00 16:00~19:00 土・日・祝休診



伊藤吾希夫(S43京大医学部卒)

JR 神戸線三ノ宮駅山側

グリーンシャポービル 3F

(神戸市中央区琴ノ緒町 5-3-5)

お電話はこちら

078-222-6070

FAX 078-222-6071



あこう堂は、古流柔道を応援します



※今のところ→貸し道場・教室・スペースです（平日1時間1000円～）

●設備：動画遅延再生システム、録画システム、液晶モニター、DVD再生、スポーツタイマー、サンドバッグ、ロープ登り、クライミングボード、シャワーほか。ミット、グローブ類、レンタル道着もあり。

●毎週水曜夜は高専柔道（七帝柔道）練習日。ときどき土日の練習会あり。
クラス拡張、開催日の増加は、常に検討課題なので、あなたのご要望次第です。よろしく。

（あこう堂：詳細はこちら。↓ブログ、ホームページまでたどりついてちょ。）

あこう堂ブログ（QRコード）



<http://blog.livedoor.jp/akoudou2008/>



あこう堂ホームページ（QRコード）

<http://accordsuma.grupo.jp/>

〒654-0055 神戸市須磨区須磨浦通5-5-12・あこう堂(080-5323-4775)

（あこう堂謹呈オリジナルグッズ）



昭和 Freestyle 柔道 T シャツ

◎各サイズ2000円（一般）
1500円

（あこう堂会員&会場価格）

◎綿タイプ、速乾性ドライタイプあり。



昭和 Freestyle 柔道」てぬぐい

◎1000円

（※あこう堂会員&会場価格：800円）

※いずれも在庫限り：

あこう堂へお問い合わせください

●昭和 Freestyle 柔道（ロゴ）●

・日本柔道が花開き、成熟した時代。高専柔道、武徳会も活況であった戦前から、講道館柔道の完成・国際化にいたるまでの華やかなりし「昭和の柔道」を格調高い白舟書体で表しました。

・「柔道」だけでなく、あらゆる奥義に通じる「柔」は筆文字で強調。

・「Freestyle」とは、高専柔道の先達が貫いた「柔道自由の原則」を、さらには現在の国際柔道の「グレコローマン化」とは異なり、「フリースタイル」が保たれていることも示します。

●古流柔道（印）●

創始された当時の精神を残す「柔道の本道」「本来の柔道」を「古流柔道」として典雅で重厚な印相体で表しています。昭和になってもフリースタイルを貫いた高専柔道は「古流柔道」であり、「昭和 freestyle 柔道」でしょう。

全体として日本伝統の「藍染風」の仕上がり。

柔道にまだ武術が残る「柔道最強」であった時代。昭和の香り漂う、どこにもないあこう堂オリジナル



祝・古流柔道大会



OB (匿名) 有志一同

大学柔道部の入部もお待ちしています